



# 校区コミュニティの推進は、行政と市民との信頼づくり

五十嵐 多喜子 議員

**問** 現在校区コミュニティの推進が投げかけられている。市長が市民に「何のために」が伝わっていないのでは、また「行政の下請けではないか」と思われているのではと述べているとお聞きします。市長の解釈はいろいろだ。役所が変われば街が変わり、生き生きとした街は職員が良い、と言う。行政と市民の信頼が大事。職員の接遇について尋ねる。

**市長** 人間の歴史の中で、多くは時の権力・支配欲が中心であった。社会の行き詰まりを突破



するため、新しい概念、認識・取り組みがないと、今の混乱の再構築はありえない。今民主主義社会を構築できるチャンスと思う。

接遇向上委員会、幹部職員を対象にした人事評価制度等は、今まで53年間市役所の中で行わなかった事だ。

## 固定資産税過払いへの市の対応は

**問** 固定資産税の過誤納金について、5年以上の返還に対応している自治体が増加しているとの事だが、市はどう対応しているか。

**財務課長** 市では、平成9年度以降は課税明細を納税通知書と共に送付している。

また毎年4月に縦覧閲覧に供している。平成12年3月に要綱を策定し、平成元年以降で20年を越えない範囲で対応し、間違いがあれば返還の手続きをしている。

## 新型インフルエンザ対策は

**問** 新型インフルエンザの出現が間近いと聞かすが、合同訓練ができないか。

**健康づくり課長** 新型ウィンフルエンザの発生前から心がける事は、普通のインフルエンザ対策の延長。

**消防本部警防課長** 国・県のマニュアルが示された時合同訓練もできると思う。

# 築後市の農商工連携はどうなっているか

松竹 秀樹 議員

**問** 築後市の農商工連携はどのような取り組みがなされていて、それに対する支援策はどうなっているか。

**建設経済部長** 商工会議所と連携をして、農産物を使ったジャム、あまおう酢ドリンク、なしカレー等が作られている。

また、こういった連携事業を支援するために、農商

工連携促進法という法律が制定され、国の補助事業として、小規模事業者新事業全国展開支援事業がある。

**問** 今後築後市としてどのように取り組まれるのか。

**建設経済部長** 大豆を使つたまるごと豆腐の生産販売、ナシ、ブドウ等の摘果作業で切り落としたものの商品化、トマトの劣化したものをピュール

## 駅西側開発はどうなっているか

**問** 羽犬塚駅西側開発については、どう考えているか。

**建設経済部長** 駅西側に計画している市道と泉久保田前田線の整備計画が、平成19年度から23年度までの5カ年間を計画していて、最終年度23年度においてロータリーを含めた駅西の広場の事業実施をしたい。

**問** 駅西側のアクセス道路の延長道路である、県道江島築後線の整備についてどう考えているのか。

**道路・水路課長** この道路については、平成17年度10月に二川校区の行政区長さん方から要望が出ていて、県に県事業の道路改良として取り組んでいただくよう、今後も強く要望していく。



農商工連携によって作られた築後産大豆丸ごと豆腐

として販売出来ないか。また、曲がったナスやキュウリを塩漬け等にしたり加工品の販売ができないか等、いろんな形での農商工連携を図りながらの取り組みに力を入れていく。